

情報科に期待されること

富山県教育委員会県立学校課
指導主事 野 崎 悟

富山県高等学校教育研究会情報部会の研究紀要第8号の発行にあたり、会員の皆様方の実践研究に対する熱心な取り組みに対し、深く敬意を表します。

新学習指導要領では、「社会と情報」「情報の科学」の各科目の内容に情報モラルを項目立てし、情報モラルを身に付けさせる学習をより一層重視するなど、実践的な能力や態度が身につくような内容に改善を図っています。

永井克昇文部科学省初等中等教育局視学官は、情報科に期待されていることは情報活用能力を育成することであり、「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」の3つの力を、バランスよく子どもたちに身に付けさせることが必要と述べています。情報教育は、高校のすべての教育活動を通して達成されることから、情報科は各教科・科目や総合的な学習の時間、特別活動においても積極的に連携していくことが必要です。

生徒指導上では、インターネット「掲示板」への書き込みによる誹謗中傷をはじめ、ブログやプロフへの対応などが大きな課題となっており、情報モラルの向上が求められます。また、子どもたちの身の回りには国語の文学作品や音楽での楽曲及び絵画などの数多くの著作物が存在し、子どもたち自ら何らかの創作活動を行い「著作物」を生みだしています。日々の学習活動でも著作権について指導する必要があります。

現在、各学校におかれては新学習指導要領の全面実施に向けて準備をいただいているところと思いますが、学校教育活動全体での取り組みを進めるとともに、教科「情報」の実施に関して、以下の3点についての配慮をお願いします。

一つ目は、新学習指導要領において、両科目とも総授業時数に占める実習に配当する授業時間の割合が示されなくなりました。しかし、このことは「実習をどの程度取り入れるのか」という割合の判断を、各学校の実情に応じて弾力的に設定できるようにしたものです。新学習指導要領解説では、情報活用能力を確実に身につけさせるためには、情報手段を活用した実習を積極的に取り入れることが必要であり、実習についてはますます重要であると示されています。

二つ目は、生徒の能力・適性、多様な興味・関心、進路希望等に応じて、可能な限り「社会と情報」「情報の科学」の両科目を開設していただきたいということです。あらかじめ学校側で開設する科目を決めてしまうのではなく、両科目を開設して生徒が主体的に科目を選択できるよう、検討していただきたいと思います。

三つ目は、指導の効果を高めるために、同一年次で集中的に2単位を履修させた方がより情報活用能力の定着に効果的あり、各科目の実施年次については、原則として同一年次で履習することが示されています。

おわりに、情報教育に対する関心は高く、寄せられる期待は大きいものがあります。今後とも情報部会の先生方には、上記のような情報科の趣旨をふまえ、積極的な実践研究をお願いするとともに、本県の情報教育の更なる発展に大きな役割を果たされることを期待いたします。